



平成 19 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 加 藤 雅 一
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取 締 役 松 井 政 彦
 電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

特別損失の発生および平成 1 9 年 3 月期業績予想 (連結 ・ 個別) の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 18 年 11 月 10 日付当社「平成 19 年 3 月期個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました通期の個別業績予想および平成 19 年 2 月 9 日付当社「平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務 ・ 業績の概況 (連結) 」にて発表いたしました通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 平成 19 年 3 月期 連結業績予想の修正

通期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|-------|------|-------|
| 前 回 予 想 (A) | 8,525 | 634 | 1,681 |
| 今 回 修 正 (B) | 8,899 | 475 | 2,563 |
| 増減額 (B - A) | 374 | 159 | 882 |
| 増 減 率 | 4.4% | - | - |

修正理由

当社グループの中核事業であります商品先物取引業界は、改正商品取引所法の施行等の影響を脱しきれず、全国商品取引所の総売買高は 170,201 千枚 (前年同期比 78.9%) にとどまりました。このような環境の中で、当社グループの通期の業績は、営業収益は 8,899 百万円、経常利益は 475 百万円の損失となりました。

また、貸倒懸念債権である委託者未収金の見合担保評価について厳格に検討した結果、貸倒引当金繰入額として 567 百万円を特別損失に計上したことに加え、従来、支出時の費用として計上しておりました役員退職慰労金について、平成 19 年 3 月期より期末要支給見込額を役員退職慰労引当金として計上することに変更し、過年度発生額 426 百万円を特別損失に計上 (当年度発生額 46 百万円を営業費用として計上しております。) したことにより、当期純利益は 2,563 百万円の損失となる見込みであります。

ご参考 : 前期の実績 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------------------|-------|-------|-------|
| 通 期 (H17/4 ~ H18/3) | 8,527 | 1,166 | 202 |

2. 平成19年3月期 個別業績予想の修正等

通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------|------|-------|-------|
| 前回予想（A） | 942 | 553 | 436 |
| 今回修正（B） | 908 | 448 | 1,790 |
| 増減額（B - A） | 34 | 105 | 2,226 |
| 増減率 | 3.6% | 19.0% | - |

修正理由

通期の業績予想につきましては、営業収益は908百万円、経常利益は448百万円となる見込みであります。特別損失として連結子会社の株式評価損2,097百万円を計上したため、当期純利益は1,790百万円の損失となる見込みであります。なお、連結子会社の株式評価損は、当該子会社に計上していた繰延税金資産を取崩したことに加え、当該子会社の保有株式の評価損を計上したことにより当該子会社の純資産額が減少した為であります。

ご参考：前期の実績（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円）

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------------|------|------|-------|
| 通期（H17/4～H18/3） | 682 | 306 | 174 |

3. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上